

「子育て支援活動『ぶんぶんひろば』の検証」 —学生の自己評価および参加保護者アンケートの分析を通して—

橋 那由美
Nayumi TACHIBANA

抄録

本学における、未就園児対象の子育て支援ひろば「ぶんぶんひろば」に関して、担当した学生による自己評価とぶんぶんひろば参加保護者によるアンケートをもとに、主に学修効果の可視化を試みた。学生1年生と2年生との比較や、学生の自己評価とぶんぶんひろば参加保護者からの評価との比較に加え、学生およびぶんぶん参加保護者とも、その自由記述に着目し、KH Coderを用いて計量テキスト分析を行なった。その結果、1年生は評価項目すべてにおいて1年生に比して総じて高く自己評価しており、自由記述内容に関しても充実ぶりが認められた。一方で、学生の課題としては「時間、敬語、服装等のルールを守る」といった社会規範に関しては学生の自己評価および参加保護者からの評価の双方が低めである点や、積極性に関して学生自身は積極的に参加していると高く自己評価するも参加保護者からの評価が芳しくない傾向にある点が可視化され、保護者のニーズに関しては、家では実施が難しい活動をぶんぶんひろばに望んでいる点などが可視化された。

なお、本研究の試みは、大学の研究機関としての役割に資するという位置づけである。

キーワード (5語) 学修効果の可視化 計量テキスト分析 共起ネットワーク サービスラーニング ループリック

I はじめに

保育士養成課程を有する本学において、2013(平成25)年度より、「ぶんぶんひろば」と銘打った子育て支援ひろばを実施している。本事業は、地域の未就園児とその保護者を対象として、本学子ども学科の学生らが、参加者親子が楽しめる催しを計画・運営するサービスラーニングである。主たる目的としては、未就園児親子に対する子育て支援はもちろんのこと、学生の保育感覚の醸成や乳幼児の発達に関する理解の促進、そしてさらには、長浜市の人口減少問題解決への一助としての社会貢献、の3点を掲げている。参加親子によし・大学によし・地域によし、のいわゆる「子育て三方よし」である。

本研究では、このぶんぶんひろばの教育的効果を検証し、保育士養成課程を有する大学における子育て支援活動の意義について明らかにしたい。学生にとっての学修効果の可視化をはじめ、地域の子育て世代のニーズについても可視化を試み、地域の行政機関にフィードバックすることで、地域の子育て支援に貢献することを、本稿執筆の目的とする。

なお、本稿は、ぶんぶんひろばWG⁽¹⁾の実践に関して分析したものである。

II 2019年度ぶんぶんひろばの概要

(1) 事業の目的

- ①大学の使命として、地域課題である「子育て世代の支援(人口減少問題)」の解決に貢献する。
- ②学生の実践的な学びの場と位置づけ、サービスラーニングや課題解決型学習を通じた学習成果の獲得を目指す。
- ③教員がぶんぶんひろばを通して実践事例の研究を行い、指導法や授業内容等の改善に資する。また、教材研究として収集するアンケート等から地域の子育て世代のニーズ等を分析し、地域の行政機関にフィードバックすることで、課題解決に貢献する。

(2) 事業の内容

<2019年度> 年間7回開催 各回10:45~12:00(受付10:30~, ひろば終了後14:00まで会場開放)
滋賀文教短期大学翠湖館あすなろホールにて

第1回	4月24日(水)	「ふれあい遊び」	(2年生Aグループ13名)
第2回	5月22日(水)	「身体を動かして遊ぼう!」	(2年生Bグループ13名)
第3回	7月17日(水)	「さわって遊ぼう!」	(2年生Cグループ12名)
第4回	8月22日(木)	「水遊びをしよう!」	(1年生Aグループ9名 ⁽²⁾)
第5回	10月9日(水)	「ミニ運動会」	(1年生Bグループ11名)
第6回	11月27日(水)	「お楽しみ楽器遊び」	(2年生Aグループ14名)
特別回 ⁽³⁾	10月26日(土)	「様々なコーナーで遊ぼう」	

()内は、当日参加した学生の所属内訳

(3) 担当グループ編成

- ・第1回~第3回については、子ども学科2年生全員(保育士養成コース・小学校教諭養成コース)を3グループに編成した。
- ・第4回~第6回については、子ども学科1年生全員(保育士養成コース・小学校教諭養成コース)を3グループに編成した。
- ・特別回については、子ども学科両学年および国文学科両学年から参加者を募った。

III アンケート結果および補足説明

(1) 2019年度ぶんぶんひろばに関するアンケートの概要

今年度のぶんぶんひろばの実施に際しては、毎回の終了後におこなう2種類のアンケートについて、「学生を対象とした自己評価アンケート」、「参加保護者を対象としたアンケート」のいずれも、様式を大きく変更した。

旧来は、4件法を中心とした段階評定法であった。しかし、4件法⁽⁴⁾では、何を以てその選択肢に該当するのかという評価の尺度が判然とせず、回答者によって思い描く基準が大きく異なることが想定されていた。一方で、あまりに選択肢の質問文が長いとアンケートの回答率や精度が下がることが懸念され、逆に自由記述欄のみとすると回答内容が偏ることが懸念される。また、保護者アンケートに関しては、ぶんぶんひろば終了直後に、学生らが子どもたちと自由遊びをしている傍らで保護者に記入をお願いする都合上、ある程度、短時間で解答できるものが望ましいという観点も存在する。よって、アンケートの方式および内容に関しては、WG内で議論を重ねた。

最終的には、保護者用アンケートについては、①ぶんぶんひろばを知った媒体や参加理由、実施してほしい活動をたずねる多肢選択、②ループリック評価を基盤とした短文の選択肢による3件法、そして③自由記述欄、の3本立て形式とした。特に、ループリック評価の部分に関しては、「学生全員で協力しあい、全員が活発に活動しているように見えた」「学生から挨拶をしていた」のように具体的な説明文を盛り込んだ選択肢を設けた段階評定法とした。これらを活用することで、ぶんぶんひろばにおける学生の行動について、より客観的な他者評価を行い、現状課題の可視化を試みる。

学生の自己評価についても、ループリック評価を基盤とした短文の選択肢による3件法および自由記述欄の2本立てとした。ループリックの部分には、「グループの活動に積極的に参加し、メンバーが相互に意見を出し合えるように努めた」「活動には参加したが、意見を出したり協力したりすることはあまりできなかった」「自分の役割の他にもすべきことがないか考えて行動した」等の文言を示すことにより、学生らが、他の選択肢と比較しつつ自己の取組を振り返ったり、次の段階の到達目標を認識したりする効果を予測している。

学生の自己評価結果の分析に基づき、現状課題を可視化したうえで、保護者アンケート結果も交えた総合考察を行う。

表1 ぶんぶんひろば 自己評価集計(2年生)

評価項目	第1回 (2019.4.24)	第2回 (2019.5.22)	第3回 (2019.7.17)	合計
1.使命感 自分に課せられた役割や任務そのものに意義や価値を見出し、その役割や任務を果たそうとする気概				
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の役割を理解し、やりがいを持てた。 ●自分の役割の他にもすべきことがないか考えて行動した。 	13/13 (100.0%)	12/13 (92.3%)	12/12 (100.0%)	37/38 (97.4%)
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の役割は理解したが、やりがいは持てなかった。 ●他人に話しかけられたり、期限が迫ったりして、ようやく対応した。 	0/13 (0.0%)	1/13 (7.7%)	0/12 (0.0%)	1/38 (2.6%)
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の役割がよく分からなかった。 ●分からないことをすぐに周囲の人に質問することができなかった。 	0/13 (0.0%)	0/13 (0.0%)	0/12 (0.0%)	0/38 (0.0%)
2.倫理感 自分の良心と社会の規範やルールに従って適切に行動できる				
<ul style="list-style-type: none"> ●すべての子どもにわけへだてなく、愛情をもって接することができた。 ●時間、敬語、服装等のマナーを守った。 	5/13 (38.5%)	11/13 (84.6%)	9/12 (75.0%)	25/38 (65.8%)
<ul style="list-style-type: none"> ●すべての子どもにほとんど同じように関わった。 ●時間、敬語、服装等のルールをほとんど守った。 	8/13 (61.5%)	2/13 (15.4%)	3/12 (25.0%)	13/38 (34.2%)
<ul style="list-style-type: none"> ●自分と気の合う子どもを優先して関わってしまった。 ●時間、敬語、服装等のマナーを守れなかった。 	0/13 (0.0%)	0/13 (0.0%)	0/12 (0.0%)	0/38 (0.0%)
3.向上心 現状に満足せず、よりすぐれたもの、より高いものをめざし、自らその目標に向かって自己研鑽に励み、努力する力				
<ul style="list-style-type: none"> ●自分なりの目標とそれに対する課題が説明できる。 ●今後も継続的に努力する予定である。 	9/13 (69.2%)	11/13 (84.6%)	8/12 (66.7%)	28/38 (73.7%)
<ul style="list-style-type: none"> ●自分なりの目標を立てて行動した。 ●自分の課題は分からないので、友人や教職員などに相談しようと思う。 	4/13 (30.8%)	2/13 (15.4%)	4/12 (33.3%)	10/38 (26.3%)
<ul style="list-style-type: none"> ●目標が具体的ではなかった。 ●自分の課題は不明瞭で、どうすれば良いか分からない。 	0/13 (0.0%)	0/13 (0.0%)	0/12 (0.0%)	0/38 (0.0%)
4.チームワーク(協働性) ともに目標を共有し、自発的・積極的に課題解決に向け、力を合わせて取り組み、互いに高め合おうとする態度				
<ul style="list-style-type: none"> ●グループの活動に積極的に参加し、メンバーが相互に意見を出し合えるように努めた。 ●グループで目標と現状を共有できるように努めた。 	8/13 (61.5%)	12/13 (92.3%)	11/12 (91.7%)	31/38 (81.6%)
<ul style="list-style-type: none"> ●活動には参加したが、意見を出したり協力したりすることはあまりできなかった。 ●共同作業や情報共有が時々できなかった。 	5/13 (38.5%)	1/13 (7.7%)	1/12 (8.3%)	7/38 (18.4%)
<ul style="list-style-type: none"> ●グループの活動にほとんど参加しなかった。 ●共同作業や情報共有がほとんどできなかった。 	0/13 (0.0%)	0/13 (0.0%)	0/12 (0.0%)	0/38 (0.0%)
5.コミュニケーション力 相手の言いたいことを的確につかみとる力および相手と意思疎通を図りながらきっちりかみ合ってやっていくための力				
<ul style="list-style-type: none"> ●全ての人に自分から挨拶し、そのときに相手の状況や顔色を観察した。 ●子どもや保護者の気持ちをよく聴いたり代弁したりしながら、やり取りした。 	6/13 (46.2%)	6/13 (46.2%)	5/12 (41.7%)	17/38 (44.7%)
<ul style="list-style-type: none"> ●全ての人に挨拶ができた。 ●会話のやり取りに戸惑うこともあったが、子どもにも保護者にも自分から関わろうと努力した。 	7/13 (53.8%)	7/13 (53.8%)	7/12 (58.3%)	21/38 (55.3%)
<ul style="list-style-type: none"> ●挨拶ができないことがあった。 ●子どもや保護者にどう対応すれば良いか分からず、自分から行動できなかった。 	0/13 (0.0%)	0/13 (0.0%)	0/12 (0.0%)	0/38 (0.0%)

表2 ぶんぶんひろば 自己評価集計(1年生)

評価項目	第4回 (2019.8.22)	第5回 (2019.10.9)	第6回 (2019.11.27)	合計
1.使命感 自分に課せられた役割や任務そのものに意義や価値を見出し、その役割や任務を果たそうとする気概				
●自分の役割を理解し、やりがいを持てた。 ●自分の役割の他にもすべきことがないか考えて行動した。	6/9 (66.7%)	11/11 (100.0%)	13/14 (92.9%)	30/34 (88.2%)
●自分の役割は理解したが、やりがいは持てなかった。 ●他人に話しかけられたり、期限が迫ったりして、ようやく対応した。	3/9 (33.3%)	0/11 (0.0%)	1/14 (7.1%)	4/34 (11.8%)
●自分の役割がよく分からなかった。 ●分からないことをすぐに周囲の人に質問することができなかった。	0/9 (0.0%)	0/11 (0.0%)	0/14 (0.0%)	0/34 (0.0%)
2.倫理感 自分の良心と社会の規範やルールに従って適切に行動できる				
●すべての子どもにわけへだてなく、愛情をもって接することができた。 ●時間、敬語、服装等のマナーを守った。	2/9 (22.2%)	9/11 (81.8%)	8/14 (57.1%)	19/34 (55.9%)
●すべての子どもにほとんど同じように関わった。 ●時間、敬語、服装等のルールをほとんど守った。	5/9 (55.6%)	2/11 (18.2%)	6/14 (42.9%)	13/34 (38.2%)
●自分と気の合う子どもを優先して関わってしまった。 ●時間、敬語、服装等のマナーを守れなかった。	2/9 (22.2%)	0/11 (0.0%)	0/14 (0.0%)	2/34 (5.9%)
3.向上心 現状に満足せず、よりすぐれたもの、より高いものをめざし、自らその目標に向かって自己研鑽に励み、努力する力				
●自分なりの目標とそれに対する課題が説明できる。 ●今後も継続的に努力する予定である。	3/9 (33.3%)	8/11 (72.7%)	10/14 (71.4%)	21/34 (61.8%)
●自分なりの目標を立てて行動した。 ●自分の課題は分からないので、友人や教職員などに相談しようと思う。	6/9 (66.7%)	3/11 (27.3%)	4/14 (28.6%)	13/34 (38.2%)
●目標が具体的ではなかった。 ●自分の課題は不明瞭で、どうすれば良いか分からない。	0/9 (0.0%)	0/11 (0.0%)	0/14 (0.0%)	0/34 (0.0%)
4.チームワーク(協働性) ともに目標を共有し、自発的・積極的に課題解決に向け、力を合わせて取り組み、互いに高め合おうとする態度				
●グループの活動に積極的に参加し、メンバーが相互に意見を出し合えるように努めた。 ●グループで目標と現状を共有できるように努めた。	6/9 (66.7%)	9/11 (81.8%)	10/14 (71.4%)	25/34 (73.5%)
●活動には参加したが、意見を出したり協力したりすることはあまりできなかった。 ●共同作業や情報共有が時々できなかった。	3/9 (33.3%)	2/11 (18.2%)	4/14 (28.6%)	9/34 (26.5%)
●グループの活動にほとんど参加しなかった。 ●共同作業や情報共有がほとんどできなかった。	0/9 (0.0%)	0/11 (0.0%)	0/14 (0.0%)	0/34 (0.0%)
5.コミュニケーション力 相手の言いたいことを的確につかみとる力および相手と意思疎通を図りながらきっちりかみ合せてやっていくための力				
●全ての人に自分から挨拶し、そのときに相手の状況や顔色を観察した。 ●子どもや保護者の気持ちをよく聴いたり代弁したりしながら、やり取りした。	2/9 (22.2%)	4/11 (36.4%)	7/14 (50.0%)	13/34 (38.2%)
●全ての人に挨拶ができた。 ●会話のやり取りに戸惑うこともあったが、子どもにも保護者にも自分から関わろうと努力した。	4/9 (44.4%)	7/11 (63.6%)	7/14 (50.0%)	18/34 (52.9%)
●挨拶ができないことがあった。 ●子どもや保護者にどう対応すれば良いか分からず、自分から行動できなかった。	3/9 (33.3%)	0/11 (0.0%)	0/14 (0.0%)	3/34 (8.8%)

(2) ぶんぶんひろば担当学生による自己評価アンケート結果および概観

前述のとおり、2019年度のアンケートについては、ルーブリック評価を基盤とした方式に切り替えた。ルーブリックとは、「特定の学習課題に含まれる重要な要素と、成長が進む過程での各レベルにおける学びの特徴を詳しく述べて、表のような形にまとめたもの」⁽⁵⁾、あるいは「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」⁽⁶⁾である。加えて、本研究においては、学生らが、他の選択肢と比較しつつ自己の取組を振り返ったり、次の段階の到達目標を認識したりする効果を予測し、かつ期待してのルーブリック採用である。

表1および表2を概観すると、2年生は5つの評価項目すべてにおいて、1年生に比して総じて高く自己評価していると指摘し得る。これは、実習の前後の時期のぶんぶんひろば担当であったことが背景として考えられる。2年生がぶんぶんひろばを担当したのは春学期であり、特に保育士養成コースの学生にとっては1年次2月の保育実習、2年次6月の幼稚園実習、2年次9月の保育園実習、と実習が連続する中で、小学校教諭養成コースの学生も2年次の6月に教育実習がある中で、大学での学びと現場での実習とを呼応させていくサイクルの中に、ぶんぶんひろばも自然に位置づいたものと捉えることができよう。

具体的な評価項目としては、両学年とも、使命感についてもっとも自己評価が高く、次いで、チームワーク（協働性）や向上心についても総じて高めであるが、倫理感およびコミュニケーション力については低めである。これに関しては、引き続き教育活動全般において、倫理感やコミュニケーション力の向上を図っていく必要性が、より可視化されたと評価できる。

ただ、実際には、母数が少ないため回ごとの分析に不向きであり、学生の回答内容と実際の行動との間に乖離が生じていると捉え得るケースが見受けられるといった問題点も見出された。後者の具体例としては、実際にはぶんぶんひろばの打ち合わせや事前準備に不参加である等、ある程度客観的に峻別し得る項目についても、実状に反して高く自己評価をしている等、学生の自己評価と行動との隔たりが認められるケースが存在した。本稿では、これら諸問題については質問紙法ゆえの限界であると捉え、精査しない。

総じて、段階評定法を用いた自己評価のみでは、学生の学びを分析するには不十分であるため、次に、自由記述欄に着目し、KH Coder 3を使用して計量テキスト分析を行い⁽⁷⁾、学修効果の可視化を試みる。1年生に関しては34名中32名が自由記述欄に何らかの記述をしており、41の文が確認できた。755語（総抽出語数）が出現しており、語の重複などを整理すると234語（異なり語数）が抽出された。ここから助詞や助動詞などを除いた結果、分析対象として313語（異なり語数157語）が抽出された。2年生に関しては38名中35名中が自由記述欄に何らかの既述をしており、61の文が確認できた。1,257語（総抽出語数）が出現しており、語の重複などを整理すると306語（異なり語数）が抽出された。ここから助詞や助動詞などを除いた結果、分析対象として492語（異なり語数214語）が抽出された。図1および図2に示す共起ネットワークについては、アンケート回答人数を鑑み、出現頻度2以上の語を分析対象とした。

図1と図2、あるいは表3と表4とを比較すると、1年生よりも2年生の記述内容が充実している状況が明らかとなる。KH CoderのKWICコンコーダンスのコマンドを用い、両学年とも多く出現している語「関わり」「関わる」を含む記述をみていく。一例としては、1年生では、「月齢や年齢ごとに関わり方が違って戸惑いこともあったけれど、自分から積極的に関われて良かった。」「もっと、子どもに安心してもらえるような関わり方が必要だと感じた。」「最初に子どもにどのような言葉かけをするかを悩んだ。全員と関わることはむずかしかったけど、しっかり関わることができた。」、2年生では、「駐車場から元気に挨拶も関わりもできたのでよかったです。」「子どもたちとの関わりは、実習とは違った難しさ、楽しさがありました。」等が挙げられる。関わる相手として、「子ども」という語は両学年の自由記述に多数出現している。一方で、「保護者」という語は、2年生の自由記述には10回出現するのに対し、1年生の自由記述には全く出現していない。これは、1年生の学生にとっては、あくまで関わる対象は子どものみであり、子どもと関わるのが精いっぱいであるが、2年生になると、保護者の反応やニーズにまで気を配れている状況が可視化されたといえるのではないだろうか。

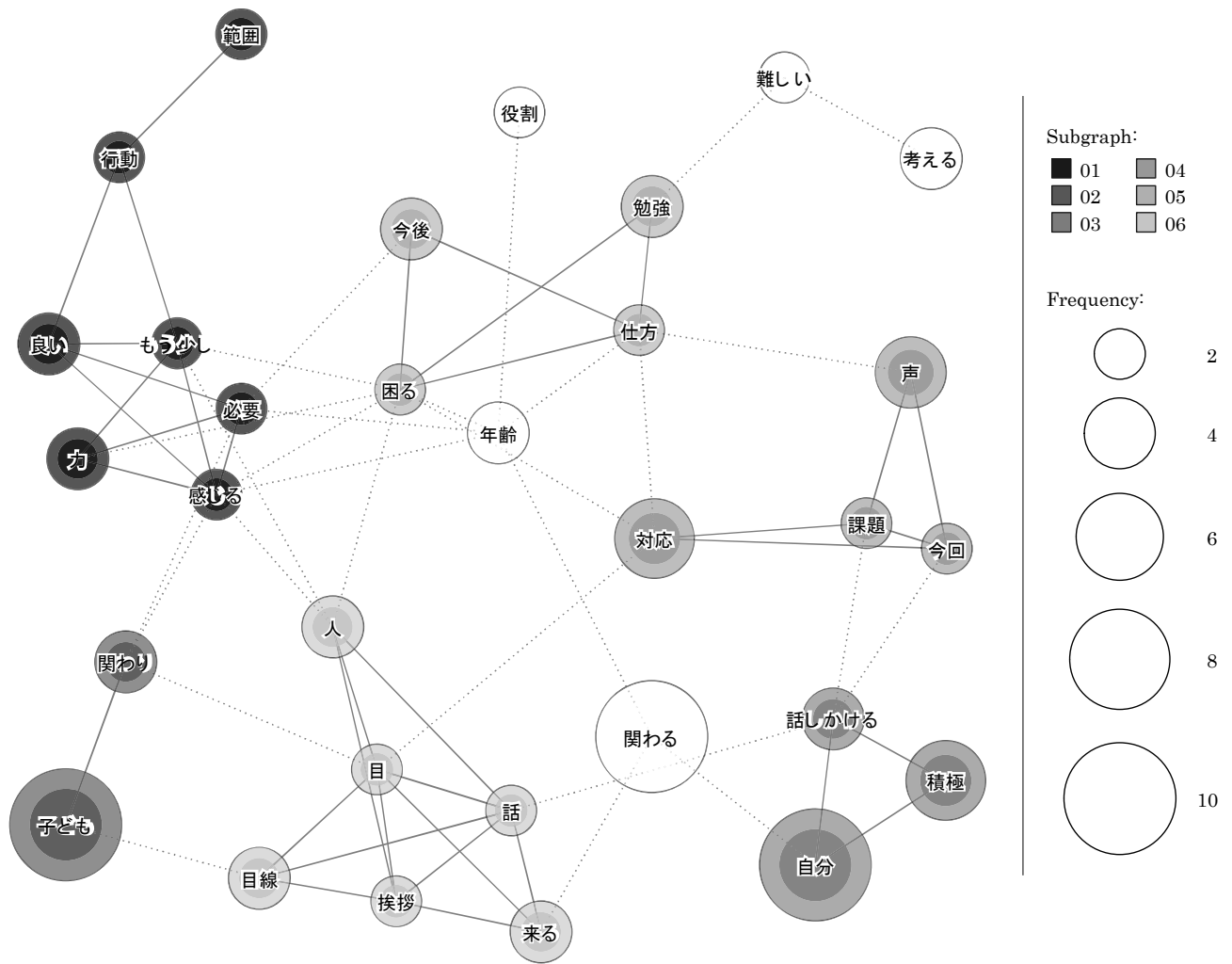


図1 ぶんぶんひろば自己評価1年生自由記述における共起ネットワーク (筆者作成)

表3 ぶんぶんひろば自己評価1年生自由記述における頻出語 (筆者作成)

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	ない	17	12	ある	4	15	勉強	3
2	する	14	12	なる	4	15	目線	3
3	思う	12	12	声	4	15	来る	3
4	できる	11	15	ぶんぶん	3	15	良い	3
5	もっと	10	15	みる	3	15	力	3
5	関わる	10	15	関わり	3	15	話しかける	3
5	子ども	10	15	考える	3			
5	自分	10	15	今後	3			
9	積極	5	15	人	3			
9	対応	5	15	よい	3			
9	子	5	15	年齢	3			

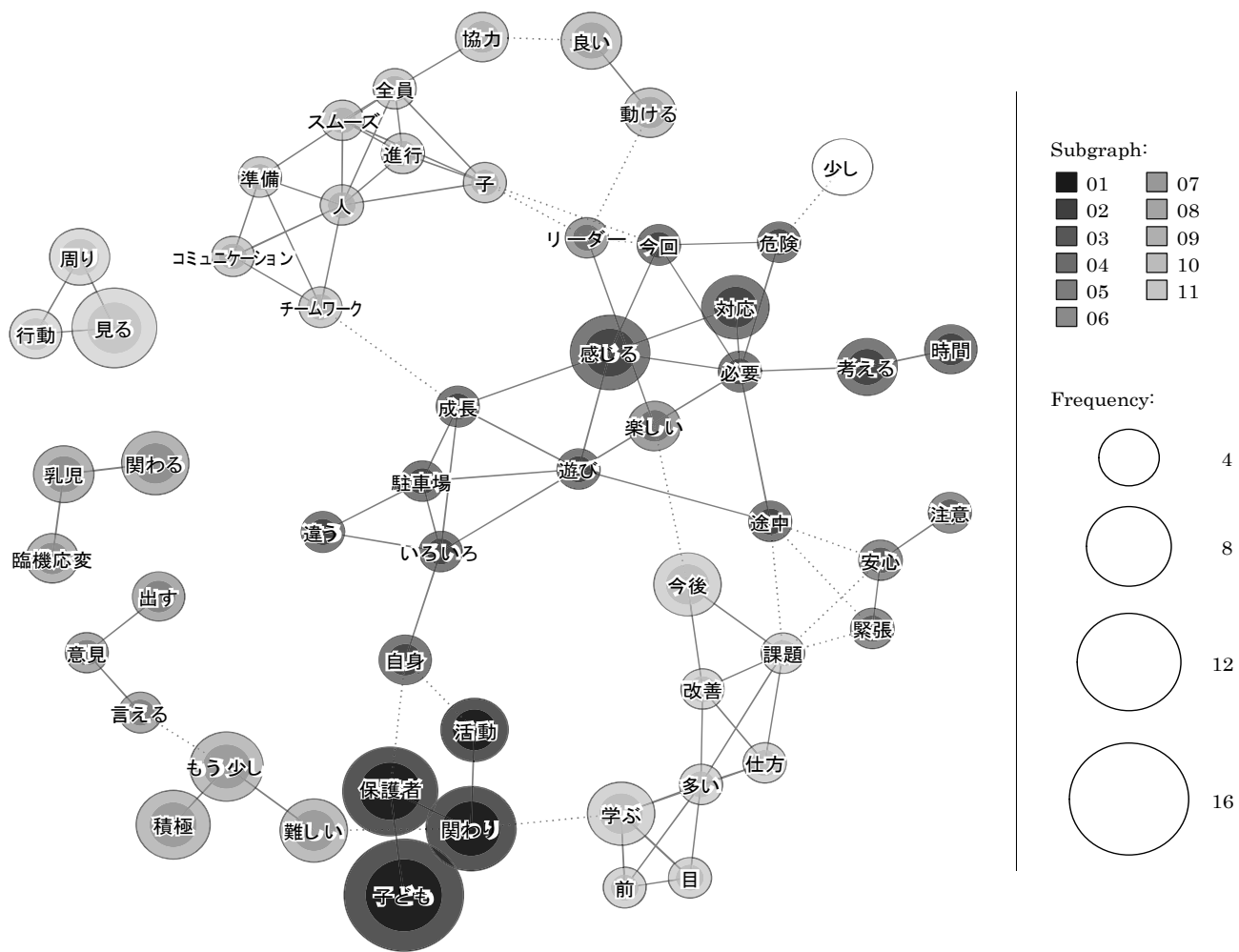


図2 ぶんぶんひろば自己評価2年生自由記述における共起ネットワーク (筆者作成)

表4 ぶんぶんひろば自己評価2年生自由記述における頻出語 (筆者作成)

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	する	31	15	なる	5	28	いる	3
2	ない	21	15	学ぶ	5	28	かけ	3
3	できる	20	15	活動	5	28	やる	3
4	子ども	16	15	関わる	5	28	会話	3
4	思う	16	15	今後	5	28	楽しい	3
5	保護者	10	15	対応	5	28	協力	3
6	ある	9	15	難しい	5	28	行動	3
6	関わり	9	22	よい	4	28	時間	3
6	自分	9	22	考える	4	28	自身	3
9	見る	8	22	周り	4	28	出す	3
9	声	8	22	少し	4	28	動ける	3
11	感じる	7	22	乳児	4	28	臨機応変	3
12	もう少し	6	22	良い	4			
12	積極	6						
12	もっと	6						

より具体的に、ややネガティブなニュアンスのある語に着目し、2年生の自由記述に6回出現する「もう少し」と、3回出現する「臨機応変」について抽出してみる。「もう少し」に関しては、「みんなみんなに関わることは難しかった。乳児に対する関わり方をもう少し学びたい。」「走りまわっている子どもに対して、どのように対応すればよいか迷いました。時間配分も、もう少し考える必要があると感じました。」といった、学生の向上心がうかがえる記述が多い。「臨機応変」に関しては、「もっと反応を見ないといけないと思いました。もっと臨機応変に動けたら良かったなと思いました。」「実際にやってみないと分からないことであったり、臨機応変にしなければいけない所が必ずあるので、何事にも対応できるようにしなければいけない。」「リハーサルの中から時間を見て行動する。次の活動のことを常に考える。より臨機応変にするのが今後の課題だなと思いました。」といった、サービスラーニングとしての真摯な姿勢がうかがえる記述である。

総じて、学生による自由記述からは、ぶんぶんひろばを担当するにあたり、日頃の学びを生かしながら、また実習での経験を思い出したり来たる実習への見通しを持ったりしながら、一人ひとり精一杯臨んでいる様子がうかがえた。短期大学2年間という限られた学修期間の中で、特に保育コースの学生にとっては、全4回計9週間の実習をこなす⁽⁶⁾わけであるから、1年次よりも2年次の記述ぶりが充実し、より具体的な記述が出現するのは、自然な流れであろう。

自由記述においては、これまでは、学生の意欲的な姿や成長ぶりを全体の語感から何となく感じとるのみであったが、本稿における学修効果の可視化の試みは、研究機関としての大学の役割に資するものであり、今後の実践への活用が期待される。

(3) ぶんぶんひろば参加保護者アンケート結果および概観

表5-1および表5-2に示す2019年度に開催したぶんぶんひろばに参加のあった保護者を対象としたアンケート結果からは、概して本学のぶんぶんひろばは参加者から肯定的評価を得ており、子育て支援として一定の役割を果たしていると考えられる。

次に、個別の項目をみていく。まず、参加者は、夏頃までは前年に比して多く、秋以降は減じている。第4回までの増加に関しては、本学と長浜市との地域連携協定に基づき、長浜市内の子育て支援センターや保健センターに春先からぶんぶんひろばのチラシを置かせてもらったり、長浜市の登録制子育て支援用アプリ内で本学のぶんぶんひろばの情報を配信してもらったりといった協力体制が功を奏したものと考えられるが、第5回および第6回の参加者減が幼児教育・保育の無償化⁽⁹⁾に起因するのか、別途要因があるのかは判然としない。第4回のみ極端に参加者が多いのは、夏期休業中につき幼稚園児や小学生といったきょうだいが同伴であったことに加え、今年度は「ぶんぶんマルシェ」と称しパンやドーナツ、かき氷など飲食物の出店を企画し学内に飲食スペースを特設したことも理由として挙げられる。アンケートの回収率が第4回のみ低い理由も同じであると考え得る。

参加者の居住地については、長浜市が大半を占めるものの、毎回のように、近隣の市からも一定数の参加がある状態が保たれている。参加理由に関しては、「子どもの遊び場を求めて」が、複数回等可であるにもかかわらず他の選択肢を大きく引き離して毎回首位を保っていることを考え合わせると、車で片道30分程度を要しても、遊び場を求めて出かけていくというニーズがあると捉えることができる。さらには、次年度に望む活動内容として「体を動かす遊び」「感触遊び」「音楽遊び」に人気があることは明らかであり、家では実施が難しい活動やある程度の人で行なう活動にこそ、より子育て支援ひろばとしてのニーズがある状況が浮き彫りとなった。

続いて、表5-2に示す、学生のぶんぶんひろばへの取り組みに対する参加保護者からの評価であるが、「チームワーク」「保育者および教育者としての使命感」「コミュニケーション」については、高評価の年間合計が8割を超え、各回の評価も総じて高めである一方で、「社会規範」および「積極性」に関しては、前者3項目に比して、評価がやや低い傾向にある。既述表1と表2に示した学生の自己評価と照らし合わせると次の3点が指摘できよう。まず1点目として、

表 5-1 ぶんぶんひろば保護者アンケート (筆者作成)

実施回	第1回 (2019.4.24)	第2回 (2019.5.22)	第3回 (2019.7.17)	第4回 (2019.8.22)	第5回 (2019.10.9)	第6回 (2019.11.27)	合計
保護者数 (前年比)	18 (+3)	42 (+4)	33 (+3)	75 (+26)	23 (-21)	31 (-7)	222 (+8)
乳幼児数 (前年比)	19 (±0)	54 (+9)	40 (+9)	111 (+37)	28 (-33)	37 (-13)	289 (+9)
アンケート有効回答数 (回収率)	17 (94.4%)	37 (88.1%)	32 (97.0%)	46 (61.3%)	21 (91.3%)	28 (90.3%)	181 (81.5%)
1 お住まいの地域について、あてはまるものに○をつけてください。(1つに○)							
長浜市	15/17 (88.2%)	31/37 (83.8%)	27/32 (84.4%)	38/46 (82.6%)	15/21 (71.4%)	22/28 (78.6%)	148/181 (81.8%)
米原市	1/17 (5.9%)	3/37 (8.1%)	3/32 (9.4%)	6/46 (13.0%)	4/21 (19.0%)	5/28 (17.9%)	22/181 (12.2%)
彦根市	0/17 (0.0%)	1/37 (2.7%)	1/32 (3.1%)	0/46 (0.0%)	1/21 (4.8%)	1/28 (3.6%)	4/181 (2.2%)
その他	1/17 (5.9%)	2/37 (5.4%)	1/32 (3.1%)	1/46 (2.2%)	1/21 (4.8%)	0/28 (0.0%)	6/181 (3.3%)
2 ぶんぶんひろばを何で知りましたか。(複数回答可)							
チラシ(さんさんランド)	9/17 (52.9%)	17/37 (45.9%)	17/32 (53.1%)	19/46 (41.3%)	13/21 (61.9%)	12/28 (42.9%)	87/181 (48.1%)
大学ホームページ	1/17 (5.9%)	3/37 (8.1%)	4/32 (12.5%)	5/46 (10.9%)	3/21 (14.3%)	3/28 (10.7%)	19/181 (10.5%)
以前に参加して	4/17 (23.5%)	15/37 (40.5%)	11/32 (34.4%)	11/46 (23.9%)	7/21 (33.3%)	16/28 (57.1%)	64/181 (35.4%)
知人/友人に誘われて	6/17 (35.3%)	11/37 (29.7%)	4/32 (12.5%)	18/46 (39.1%)	7/21 (33.3%)	5/28 (17.9%)	51/181 (28.2%)
その他	4/17 (23.5%)	1/37 (2.7%)	4/32 (12.5%)	2/46 (4.3%)	1/21 (4.8%)	0/28 (0.0%)	12/181 (6.6%)
3 どのような理由で、ぶんぶんひろばに参加してみようと思われましたか。(複数回答可)							
子どもの友だちを探して	2/17 (11.8%)	2/37 (5.4%)	2/32 (6.3%)	2/46 (4.3%)	0/21 (0.0%)	1/28 (3.6%)	9/181 (5.0%)
子どもの遊び場を求めて	14/17 (82.4%)	26/37 (70.3%)	24/32 (75.0%)	29/46 (63.0%)	15/21 (71.4%)	25/28 (89.3%)	133/181 (73.5%)
ママ友/パパ友を探して	0/17 (0.0%)	2/37 (5.4%)	1/32 (3.1%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	3/181 (1.7%)
知人/友人に誘われて	4/17 (23.5%)	6/37 (16.2%)	6/32 (18.8%)	13/46 (28.3%)	4/21 (19.0%)	2/28 (7.1%)	35/181 (19.3%)
参加したい活動があったから	1/17 (5.9%)	9/37 (24.3%)	7/32 (21.9%)	12/46 (26.1%)	5/21 (23.8%)	3/28 (10.7%)	37/181 (20.4%)
保育者を目指している学生による企画だから	1/17 (5.9%)	6/37 (16.2%)	2/32 (6.3%)	3/46 (6.5%)	4/21 (19.0%)	4/28 (14.3%)	20/181 (11.0%)
以前参加して良かったから	4/17 (23.5%)	10/37 (27.0%)	10/32 (31.3%)	9/46 (19.6%)	8/21 (38.1%)	7/28 (25.0%)	48/181 (26.5%)
その他	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	1/28 (3.6%)	1/181 (0.6%)
4 今日、参加して良かったですか。(1つに○)							
大変良かった	10/17 (58.8%)	22/37 (59.5%)	17/32 (53.1%)	24/46 (52.2%)	9/21 (42.9%)	14/28 (50.0%)	96/181 (53.0%)
良かった	7/17 (41.2%)	15/37 (40.5%)	15/32 (46.9%)	20/46 (43.5%)	12/21 (57.1%)	13/28 (46.4%)	82/181 (45.3%)
やや改善が必要	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	2/46 (4.3%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	2/181 (1.1%)
改善が必要	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	0/181 (0.0%)
5 次年度、ぶんぶんひろばで、どのような活動してほしいですか。(複数回答可)							
絵本の読み聞かせ	7/17 (41.2%)	18/37 (48.6%)	10/32 (31.3%)	8/46 (17.4%)	6/21 (28.6%)	10/28 (35.7%)	59/181 (32.6%)
体を動かす遊び	12/17 (70.6%)	28/37 (75.7%)	24/32 (75.0%)	37/46 (80.4%)	17/21 (81.0%)	23/28 (82.1%)	141/181 (77.9%)
音楽遊び(わらべうた、手作り楽器など)	10/17 (58.8%)	28/37 (75.7%)	22/32 (68.8%)	25/46 (54.3%)	13/21 (61.9%)	17/28 (60.7%)	115/181 (63.5%)
感触遊び(粘土遊び、水遊びなど)	14/17 (82.4%)	27/37 (73.0%)	25/32 (78.1%)	31/46 (67.4%)	17/21 (81.0%)	25/28 (89.3%)	139/181 (76.8%)
その他	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	1/32 (3.1%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	3/28 (10.7%)	4/181 (2.2%)

表 5-2 ぶんぶんひろば保護者アンケート 設問 6~8 (筆者作成)

実施回	第1回 (2019.4.24)	第2回 (2019.5.22)	第3回 (2019.7.17)	第4回 (2019.8.22)	第5回 (2019.10.9)	第6回 (2019.11.27)	合計
保護者数 (前年比)	18 (+3)	42 (+4)	33 (+3)	75 (+26)	23 (-21)	31 (-7)	222 (+8)
乳幼児数 (前年比)	19 (±0)	54 (+9)	40 (+9)	111 (+37)	28 (-33)	37 (-13)	289 (+9)
アンケート有効回答数 (回収率)	17 (94.4%)	37 (88.1%)	32 (97.0%)	46 (61.3%)	21 (91.3%)	28 (90.3%)	181 (81.5%)
6 学生について、項目ごとに評価をお願いします。(1つに○)							
◎学生から保育者及び教育者としての使命感を感じましたか。							
学生は子ども一人ひとりに合わせて、保育や教育として関わっていた	12/17 (70.6%)	35/37 (94.6%)	27/32 (84.4%)	33/46 (71.7%)	19/21 (90.5%)	23/28 (82.1%)	149/181 (82.3%)
保育や教育の要素はあまり感じられなかったが、学生は子どもと楽しく遊んでいた	4/17 (23.5%)	2/37 (5.4%)	5/32 (15.6%)	11/46 (23.9%)	3/21 (14.3%)	3/28 (10.7%)	28/181 (15.5%)
学生が保育者や教育者を目指している自覚に欠けるように感じられた	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	1/46 (2.2%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	1/181 (0.6%)
◎学生は社会規範に則って適切な行動をしていましたか。							
時間、敬語、服装等のルールを守った上で、全ての子どもに愛情を持って接していた。	12/17 (70.6%)	36/37 (97.3%)	26/32 (81.3%)	31/46 (67.4%)	16/21 (76.2%)	21/28 (75.0%)	142/181 (78.5%)
時間、敬語、服装等のルールは概ね守られており、全ての子どもに平等に接していた。	4/17 (23.5%)	0/37 (0.0%)	5/32 (15.6%)	13/46 (28.3%)	7/21 (33.3%)	5/28 (17.9%)	34/181 (18.8%)
保護者に対して友達口調で話す学生がいたり、服装が乱れている学生がいたりした。	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	0/181 (0.0%)
◎学生は積極的に活動していましたか。							
会場全体に目を配り、子どもとも保護者とも積極的に関わっていた。	12/17 (70.6%)	31/37 (83.8%)	25/32 (78.1%)	23/46 (50.0%)	16/21 (76.2%)	19/28 (67.9%)	126/181 (69.6%)
目の前の子どもや保護者とは積極的に関わっていた。	4/17 (23.5%)	5/37 (13.5%)	8/32 (25.0%)	18/46 (39.1%)	5/21 (23.8%)	7/28 (25.0%)	47/181 (26.0%)
自分なりに努力している様子だったが、もう少し子どもに関わってほしかった。	0/17 (0.0%)	1/37 (2.7%)	0/32 (0.0%)	4/46 (8.7%)	1/21 (4.8%)	0/28 (0.0%)	6/181 (3.3%)
◎学生のチームワークは良かったですか。							
学生全員で協力しあい、全員が活発に活動しているように見えた。	15/17 (88.2%)	35/37 (94.6%)	30/32 (93.8%)	27/46 (58.7%)	19/21 (90.5%)	26/28 (92.9%)	152/181 (84.0%)
学生は協力しあっていたが、積極性には欠けるように見えた。	1/17 (5.9%)	2/37 (5.4%)	2/32 (6.3%)	15/46 (32.6%)	3/21 (14.3%)	1/28 (3.6%)	24/181 (13.3%)
一部の学生だけが頑張っているように見えた。	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	2/46 (4.3%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	2/181 (1.1%)
◎学生のコミュニケーションの方法は良かったですか。							
学生から挨拶をしていた。子どもや保護者の話を傾聴したり代弁したりしていた。	14/17 (82.4%)	34/37 (91.9%)	29/32 (90.6%)	29/46 (63.0%)	21/21 (100.0%)	21/28 (75.0%)	148/181 (81.8%)
挨拶や会話において、戸惑いながらも努力して子どもや保護者に接していた。	2/17 (11.8%)	3/37 (8.1%)	3/32 (9.4%)	13/46 (28.3%)	1/21 (4.8%)	6/28 (21.4%)	28/181 (15.5%)
挨拶をしても学生の返答がなかった。学生から子どもや保護者に接することがなかった。	0/17 (0.0%)	0/37 (0.0%)	0/32 (0.0%)	0/46 (0.0%)	0/21 (0.0%)	0/28 (0.0%)	0/181 (0.0%)
7. 特に記憶に残った学生がいれば、その学生の名前が特徴とその理由を教えてください。 (集計対象外)							
8. 本日のぶんぶんひろばについて、他に何か感想があればご記入ください。 (集計対象外)							

コミュニケーションに関しては、学生の自己評価が1年生2年生とも総じて低めであり、やや苦手意識がある傾向がうかがえるが、ぶんぶんひろばに参加した保護者からは、学生のコミュニケーション力に対して一定の高評価を得ており、評価に隔たりが生じている状況がある。その一方、「時間、敬語、服装等のルールを守る」といった社会規範に関しては、学生の自己評価および参加保護者からの評価の双方が低めである点が2点目として挙げられる。そして3点目としては、ぶんぶんひろばにおける学生の積極性に関しては、学生自身は積極的に参加していると高く自己評価するも、参加保護者からの評価が芳しくない傾向にある状況が浮かび上がる。

そこで、子育て世代のニーズをさらに可視化すべく、保護者アンケートに関しても、その自由記述欄に着目し、KH Coder 3を使用して計量テキスト分析を行う。2019年度ぶんぶんひろば第1回～第6回において回収したアンケートのべ181枚からは、自由記述欄あわせて156箇所、226文が確認できた。2,870語（総抽出語数）が出現しており、語の重複などを整理すると、516語（異なり語数）が抽出された。ここから助詞や助動詞などを除いた結果、分析対象として385語が抽出された。なお、図3に示す共起ネットワークは、出現頻度3以上の語を対象とした。

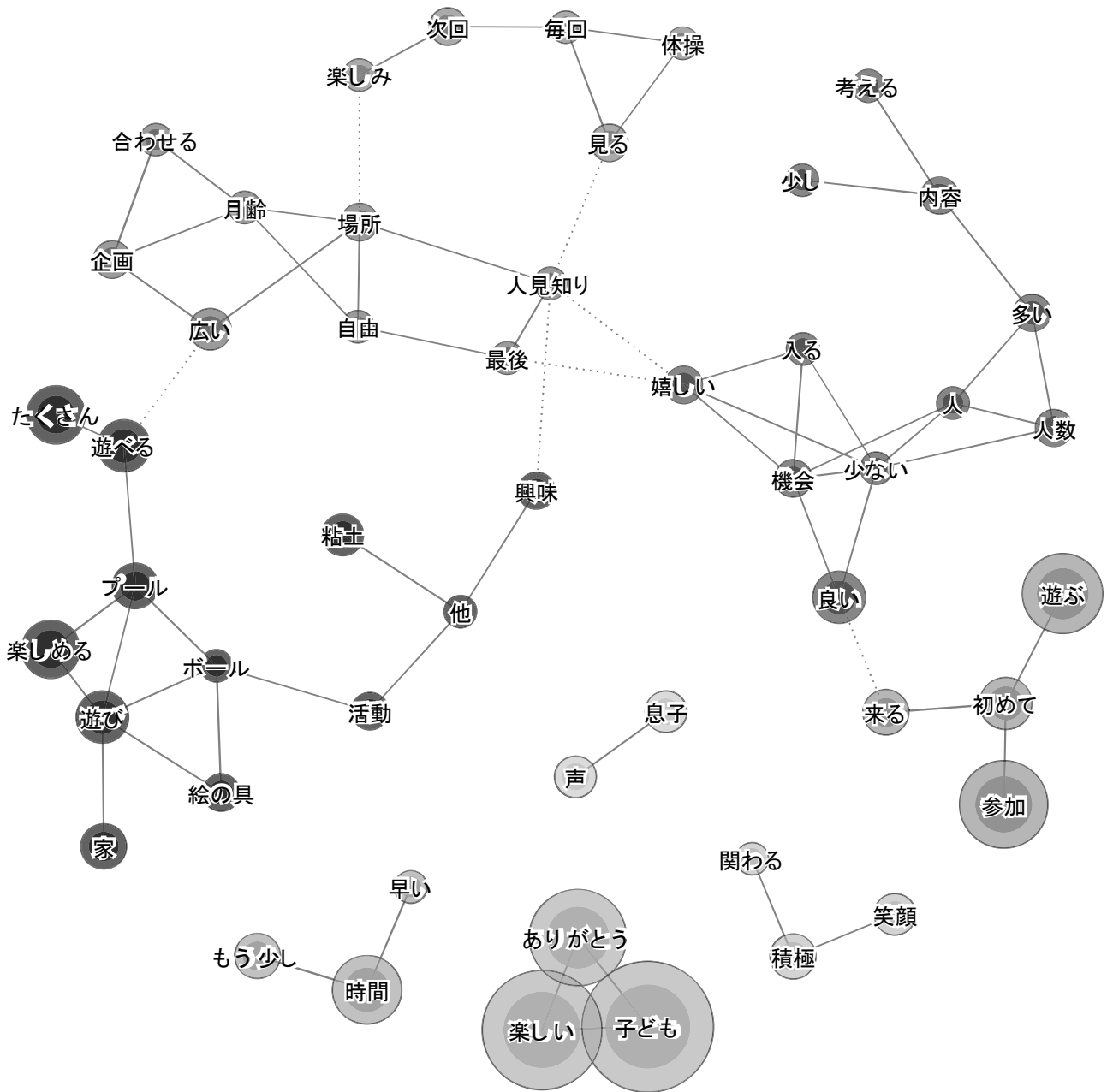
まず、表6に示す頻出語であるが、「楽しい」「楽しめる」「楽しむ」の3語を合わせると、その出現は60回となる。ぶんぶんひろばを運営するにあたり、学生も教職員も、参加者親子が楽しめる内容とするよう念頭に置いてきたが、子育て支援ひろばに対する保護者のニーズも同様であることが、あらためて可視化された結果である。

表6 ぶんぶんひろば保護者アンケート自由記述における頻出語（筆者作成）

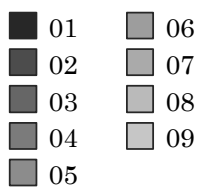
順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	子ども	52	16	一緒	7	33	絵の具	4
2	楽しい	43	16	楽しむ	7	33	活動	4
3	ありがとう	28	16	喜ぶ	7	33	企画	4
4	参加	23	19	もう少し	6	33	嬉しい	4
5	思う	19	19	プール	6	33	機会	4
5	遊ぶ	19	19	家	6	33	興味	4
5	学生	18	19	水遊び	6	33	見る	4
8	時間	14	19	積極	6	33	次回	4
9	たくさん	10	19	来る	6	33	場所	4
9	楽しめる	10	25	楽器	5	33	人数	4
11	子	8	25	気	5	33	多い	4
11	初めて	8	25	広い	5	33	内容	4
11	遊び	8	25	笑顔	5			
11	遊べる	8	25	声	5			
11	良い	8	25	息子	5			
			25	大変	5			
			25	粘土	5			

そのうえで、学生の自己評価と同じく、KH CoderのKWICコンコーダンスのコマンドを用い、ややネガティブな表現である「もう少し」に着目すると、「人数が多いので名前は呼ばなくてもよいような？もう少しプログラムの内容が多い方がいい。」「おもちゃが小さいので、テープがとれた時、赤ちゃんの口に入るとあぶないかなと思いました。もう少し大きくなっていいかも。」といった記述があり、これらは、大学として真摯に受け止め、今後のぶんぶんひろばの各回の活動を展開するにあたって活かしていくことができよう。転じて、「時間がもう少し早めから（10：00頃とか）にして、11：30頃までがありがたい。」はじめ同様の記述があったことに関しては、全くの盲点であった。本学の2校時が10：45～12：15

であり、これに合わせてぶんぶんひろばも 10:45 スタートとするのがずっと慣例となっていたが、12:00 に終了したのでは、参加者親子の昼食が遅くなったり昼食を摂らないまま帰路で子どもが寝てしまったりすることも懸念される。この視点の記述を精査した結果、次年度からは、ぶんぶんひろばの開始および終了時刻を繰り上げる予定である。



Subgraph:



Frequency:

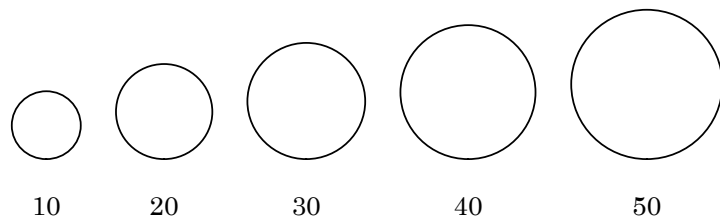


図3 ぶんぶんひろば保護者アンケート自由記述をもとにした共起ネットワーク (筆者作成)

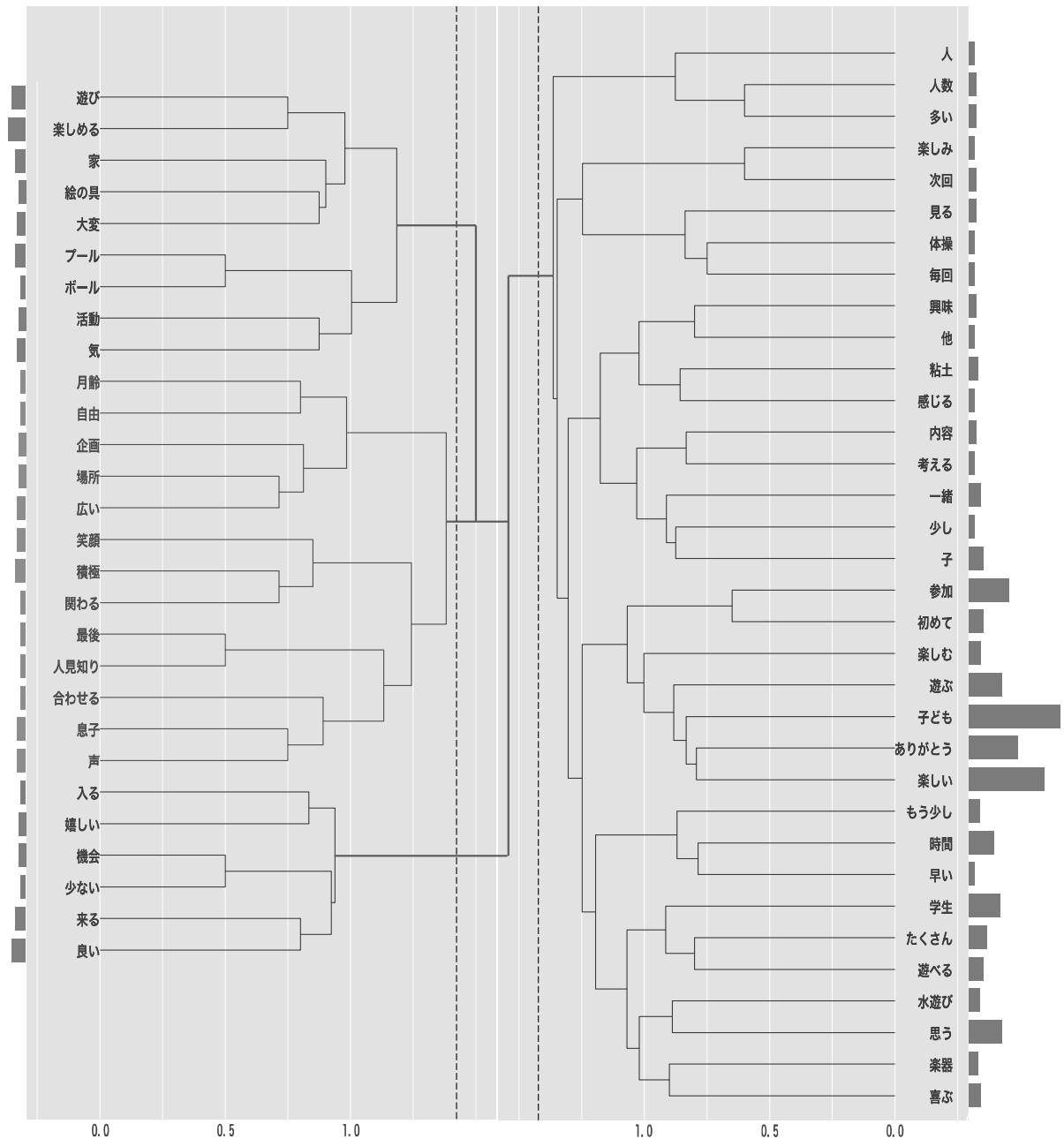


図4 ぶんぶんひろば保護者アンケート自由記述欄におけるクラスター分析（筆者作成）

表6、図3および図4において、「水遊び」「プール」「絵の具」「粘土」「楽器」「ボール」といった語が多く出現しており、自宅では実施が難しかったり大勢でこそ楽しめたりするような活動に、より子育て世代のニーズがあることも、本節であらためて可視化された。これは、既述の表5-1に示した、「体を動かす遊び」「感触遊び」「音楽遊び」といった活動が今後望まれているという結果とも合致している。また、内容のみならず、「広い」「場所」といった空間に対しても一定のニーズがある点も指摘し得る。本学のぶんぶんひろばが対象とする未就園児は、おおむね0～3歳であるが、近年のデータでは、2010（平成22）年に約30%であった1・2歳児の就園率が、わずか7年で2017（平成29）年には約45%にまで上昇している⁽⁴⁰⁾ことを鑑みると、未就園児に対しても、保育園やこども園といった「園」での活動により近い内容の子育て支援が求められていると捉える必要があるのではないだろうか。

IV まとめにかえて

本稿において、2019年度ぶんぶんひろばにおける学生の自己評価および保護者アンケートのうち、特に KH Coder を活用して計量テキスト分析を行なった。しかし、何分にも本学においては初めての試みであり、共起ネットワーク、クラスター分析、KWIC コンコーダンスのいずれにおいても、十分な分析をし得ていない点は、本研究の限界であり、汗顔の至りであると認識している。

それでも、学修効果を可視化し検証する新たな枠組みを提示し得たことに、本稿執筆の意義があるものとする。本学は小規模の短期大学であり、学生と教職員との距離が近いことが特性として挙げられる。無論、これは大きな利点ではあるものの、時として距離の近さゆえに客観性に欠ける側面も否めない。学生のサービスマーケティングとしての学修成果を判断し、改善改良につなげていくに際しては、ぶんぶんひろばに対する学生の取り組み姿勢そのものは肯定的に評価しつつも、「学生の、普段の学生生活とは異なる一面が見られた」「よくがんばっていた」といった感情的な評価にとどまらず、学生の学びを客観的に捉える視点が、今後ますます重要になってくると考えられる。また保護者に対しても同様で、ぶんぶんひろばの参加者は、概して学生に対して寛大であり、その拙さも含め総じてあたたかく見守ってくださっている状況にあるが、これらの状況を雰囲気だけで捉えてしまわずに、何らかの客観的な枠組みで分析し、改善改良につなげていく視点は、やはり必要であろう。

大学は、教育機関でもあり同時に、研究機関でもある。学生が意欲的に取り組めて、参加者親子が楽しめることを基盤とするのは重要ではあるが、本学主催のぶんぶんひろばを、「参加親子によし・大学によし・地域によし」のいわゆる「子育て三方よし」の活動として続けていくためには、大学として学術的な知見を発信していく視点の重要性を再認識する必要がある。

註

(1) ぶんぶんひろば WG メンバー

大橋英子（子ども学科教授・WG 長）、藤井美津子（子ども学科准教授）、細田あかね（国文学科講師）、伊藤孝子（子ども学科講師・副 WG 長）、林理恵（学務課教務係）、橘那由美（子ども学科講師）

(2) 参加人数が9名であるのは、ぶんぶんひろばの開催日と文教インターンシップへの参加日が重なってしまった学生が複数名いたことに因る。なお、当日の都合がつかなくとも所属グループの変更は行わず、可能な限り事前準備に参加するよう指導した。

(3) 大学祭1日目。出入り自由とし、通常回のような全体活動は一切実施せず。

(4) ここでは、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」等、選択肢文が短い様式を指す。

(5) スー・F. ヤング, ロバート・J. ウィルソン (著), 土持ゲーリー法一, 小野恵子 (訳) 『「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践される ICE モデル (主体的学びシリーズ—主体的学び研究所)』, 東進堂, 2013, 42 頁。

(6) ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ (著), 佐藤浩章, 井上敏憲, 俣野秀典 (訳) 『大学教員のためのルーブリック評価入門 (高等教育シリーズ)』, 玉川大学出版部, 2014, 2 頁。

(7) 樋口耕一 『KH Coder3 リファレンス・マニュアル』, 2019 年,

樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』, ナカニシヤ出版, 2014 年
牛澤賢二 『やってみよう テキストマイニング —自由回答アンケートの分析に挑戦! —』, 朝倉書店, 2018 年
参照。

(8) 保育実習Ⅱは2年次の9月に実施するため、ぶんぶんひろば担当回の時点での実習経験回数は、最高で3回7週間である。

(9) 内閣府ホームページ『幼児教育・保育の無償化はじまります。』, <https://www.youhomushouka.go.jp/> (2020/01/22 最終アクセス)

(10) 阿部 和子, 秋田 喜代美, 馬場 耕一郎『乳児保育 (保育士等キャリアアップ研修テキスト)』, 中央法規, 2018 年, 15 頁。

橋 那由美 子ども学科講師 シティズンシップ論